

【見通しに関する注意事項】上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。 ※1. 「「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当資料については2016年3月期に当該会計基準等を遡って 適用した後の数値となっております。

^{※2.} 当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っており、当資料については2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼 申し上げます。

この度の豪雨、地震及び台風等の自然災害により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

ここに、当社第54期第2四半期(2018年4月1日から2018年9月30日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、新型血液透析 装置「GC-X01」や摂食嚥下関連用品の販売が拡大しました。海外においては、誤穿刺防止機構付翼状針の販売や中 国で日本式血液透析装置の販売が増加しました。

この結果、当第2四半期の売上高は、前年同四半期に比べ10億23百万円増加の284億26百万円(前年同四半期比3.7%増)となりました。

利益につきましては、増収効果に加え、販売費の低減により、営業利益は4億90百万円(同213.0%増)となりました。また、持分法による投資利益を計上した一方で、為替差損の計上により、経常利益は5億93百万円(同77.6%増)となり、税金費用等を差し引いた結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億26百万円(同102.4%増)となりました。

配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基 づき、1株につき8円とさせていただきました。

当社は、ビジネスユニットによる顧客起点での戦略展開をはじめ、国内外のグループ生産拠点が一体となり競争力ある製品を市場に供給するなど、引き続き中期経営計画《GAIN2020》に掲げる取り組みを着実に進め、医療の発展と社会に貢献してまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月



※当社は2017年10月1日付で普通株式2株を1株とする株式併合を行っております。 2018年3月期の期末配当金は、株式併合後の金額を記載しており、年間配当金は単純に 合算できないため「一」と記載しております。2018年3月期の中間配当金を株式併合後に 換算した場合、年間配当金は16円に相当いたします。

セグメント情報 連結

■ 所在地別

(注)セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。

売上高

208億22百万円

【 外部顧客への売上高 193億2百万円 】

新型血液透析装置[GC-X01]や摂食 嚥下関連用品が拡大しました。



セグメント利益

3億36百万円

増収効果や販売費の低 減により増加しました。



売上高

94億27百万円

【 外部顧客への売上高 44億93百万円 】

北米向けの誤穿刺防止機構付翼状 針が増加しました。

*インドネシアの現地法人を含む



セグメント利益

3億**74**百万円

労務費の増加により減 少しました。



売上高

15億35百万円

【 外部顧客への売上高 7億8百万円 】

フィリピンへの牛産移管により日本向 けの輸液セットが減少しました。



セグメント利益

△ **3**百万円

減収の影響により減少 しました。



売上高

7億47百万円

日本向けの輸液セットの販売が増加 しました。



セグメント利益

△**2**億**14**百万円

増収効果により改善し ました。



売上高

39億21百万円

【 外部顧客への売上高 39億21百万円 】

*国内子会社及びドイツ、アメリカ、韓国の 現地法人を含む



セグメント利益

2億13百万円



■システム別

輸液•栄養領域

_{売上高} 117億19百万円

(百万円)



摂食嚥下関連用品の販売が拡大しました。

透析領域

92億23百万円 売上高

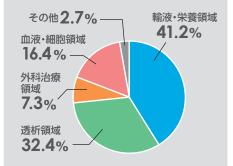
(百万円)



AVF針(血液透析用針)や日本と中国での 血液透析装置の販売が増加しました。

■地域別売上高構成比 その他 1.8% ヨーロッパ・ 8.4% 北米 -11.2% アジア 日本 12.6% 66.0%

■システム別売上高構成比



輸液•栄養領域

輸液セット、注射針、注射筒、抗がん剤調製・投与クローズ ドシステム、経腸栄養関連製品、摂食嚥下関連用品、輸液 ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析領域

血液透析装置、ダイアライザー、人工腎臓用血液回路、 AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療領域

膜型人工肺、人工心肺装置、人工心肺回路、ペースメーカー、 血管造影用カテーテル、AED(自動体外式除細動器)、他

血液・細胞領域

血液バッグ、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、細胞 保存搬送容器、他

外科治療領域

20億88百万円 売上高

(百万円)



人工心肺回路の販売が減少しました。

血液•細胞領域

46億49百万円 売上高 (百万円)



日本国内の白血球除去フィルター付血液 バッグの販売が減少しました。

前回(第53期)の特集では、2017年4月より導入したビジネスユニット制度(以下BU)の事業報告として、ホスピタルプロダクツBUとブラッドマネジメント&セルセラピー BUの戦略と活動をご紹介しました。引き続き今回は、サージカル&セラピー BUをご報告します。

当社創業期から取り組む領域で一段と強みを磨くことで、 成長性・将来性の高い事業活動を国内外で展開する

サージカル&セラピー BU

(透析領域/外科治療領域)

サージカル&セラピー BUは、当社の得意分野である 透析療法と外科治療に使用する医療機器(専用の装置 や消耗品)を扱う部門です。

2つの領域は別分野にみえるかもしれませんが、現場では共通の医療機器が多く使われています。良い治療をするには専用の医療機器を上手に使いこなすことが重要で、その能力を100%発揮させるための情報にも価値があります。情報を伝える相手は透析療法と外科治療の異なる分野でも、医師や臨床工学技士で重なる場合が多いなど、2つの領域では共通項目も多く相乗効果が見込めるとの判断から、ひとつのBUとしてスタートしました。



サージカル&セラピー BU 治療デバイス担当 推進部長 **泊田 亨**

常務取締役 サージカル&セラピー BU 統括部長 兼 営業本部 本部長

東根 康浩

[透析領域] 執行役員 サージカル&セラピー BU 血液浄化担当 推進部長

中西 義彦

透析領域

事業領域·環境

透析領域の市場環境は、国内で透析を受けている患者数は現在約32万人、合併症まで含めると2兆円規模といわれています。 今、日本では財政上、医療費抑制が必要とされていることから、診療報酬の引き下げや医療スタッフの人手不足などもあり、透析施設においても、少ない人数で安全に、より効率よく透析療法を行うことが求められています。

また海外に目を向けると、中国で透析療法を受けている人は現在約60万人で、透析を受けたくても受けられない潜在的な患者さんまで含めるとその数は約200万人といわれています。しかし中国の

透析療法は日本ほど医療体制や経験が充分とはいえないため、患者さんにも医療スタッフにも大きな負担があるのが現状です。効率性・安全性の高い日本式血液透析システムを、中国やアジア諸国へ普及促進するビジネスチャンスが広がっています。

【事業戦略】

透析領域

安全性、効率性に優れた日本式の血液透析療法をアジアで普及させ、国内外の事業展開による安定した利益を確保します。

■ 重点的な取り組み

国内市場においては、透析装置を販売するだけでなく、安全にかつ効率的に「使いこなす」という価値を含めて提案することを大切にしています。その象徴的な装置が、機能や操作性をさらに高めた新型透析装置「GC-X01」です。

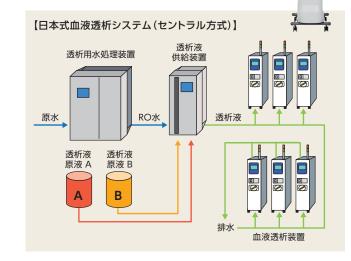
「GC-X01」は透析療法における機能向上だけでなく、操作性や安全性も向上させ、さらには装置の運転状況や患者情報も必要に応じて取り出せるなど、透析施設の運営に役立つ機能も充実させています。その価値や効果は、より高度な治療を提供したい透析施設から高く評価されています。今後はそうしたハイエンドな領域でのシェア拡大を見込んでいます。

海外市場においては、透析装置だけでなく、操作方法の情報提供 や医療スタッフの育成まで含め、日本の優れた透析医療全体を輸出 していくことを基本として進めています。

2015年、中国での先進的医療を担う北京の基幹病院への導入を皮切りに、2018年9月までには北京や上海、大連など、中国の主要都市の大病院15施設に拡大し、年内には20施設を超える状況です。そして2017年に開設した大連テクニカルセンターを、日本式の透析医療を学ぶための教育・研修施設として運用し、中国での日本式透析

システムの普及に努めています。

さらに2018年にはタイに、現地法人とのアライアンスによる合弁会社を設立。成長著しいASEANや新興国への販売力強化を進めています。



「JMS透析用コンソール GC-X01」

■ 将来への方向性

透析領域全体に関しては、日本は開発センター、海外が成長エンジンととらえています。海外で展開する際には、日本で磨き上げ



た透析システムを、トータルで提案していくことが大切だと考えています。時間はかかるかもしれませんが、そこにこだわることが現地で確かな評価をいただくことになり、結果的に大きな成果につながると考えます。

また腹膜透析に関しては 生活リズムに合わせて透析し たいという需要だけでなく、 今後は慢性疾患患者の在宅医療への移行や、終末期の透析療法 として自宅で透析する機会が増えることも予想されるため、そうし たニーズにも対応できるように考えています。

また日本では大地震や豪雨など、大災害が珍しいことではなくな

りました。災害時でも透析患者さんが安心して透析を続けられる環境を提供し続けることが社会的責任になります。透析装置を例にあげると、停電時の対策や、透析に利用する水の課題など、まだまだ研究分野は広がるばかりです。



外科治療領域

事業領域・環境

日本の心臓外科と循環器の医療レベルは高く、今後も安定した 需要が見込めることから、この領域における当社の競争力を保持し ていくことが重要と考えています。

またこの領域は、新たな抗がん剤の開発や画期的な治療法の確立などで、ある日従来の治療法が大きく変わるイノベーションが起こることも予想されます。

そのような劇的変化に対応していくには、従来の領域や技術にと

【事業戦略】

外科治療領域

既存事業の収益を強固にし、それを基盤にして新たな成長事業を創出します。

らわれるのではなく、新しい領域や治療法に対し、当社が培ってき

た独自性や優位性の ある技術をどのように 役立てていくかを、今 のうちから考え用意し ておく必要があります。

変化を先取りし製品 化に取り組むことで、 競争優位性を保ち、新 たな柱となる事業を育 てていけるよう準備し ています。



■ 重点的な取り組み

外科治療領域においても、人口減少や医療費抑制などの影響から、市場的には大きな伸びは期待できません。これまで心臓外科と循環器を主要領域として活動していましたが、こうした既存領域に関しては、さらなるコストダウンや品質改善を追求しています。

例えば当社は、病院ごとドクターごとにカスタマイズして納入する プレコネクティング心肺回路を強化し、競合メーカーに対し優位性 を確保しています。既存分野に関してはこれからも、こうした独自の 取り組みを強化することで優位性や収益力を高めていきます。



プレコネクティング心肺回路



遠心ポンプ駆動装置「ECmoVA® (エクモバ) |



JMS インナーシュアーエース®

それと同時に、新たな領域や新しい収益の柱を開発する取り組みも積極的に進めています。例えば救急救命の分野に投入した、ドクターへリ等で患者さんを搬送する際にも使用できる持ち運び可能な遠心ポンプ駆動装置「ECmoVA®(エクモバ)」は、これまで培ってきた人工心肺や体外循環の技術を応用して生まれた製品です。

また医療現場の声を聞き、現場の困りごとを解決するために、新たな製品を開発する取り組みも進めています。膵管吻合補助器

「JMSインナーシュアーエース®」はその好例で、大学病院の医師との共同研究により、手術の安全性や迅速性が補助される画期的なデバイスとして生まれました。

その他の取り組みとして、一定期間のうちに安全に体内で分解される生分解性材料は、当社が先行して研究を進めてきた技術で、現 在癒着防止材などが実用化への最終段階を迎えています。

■ 将来への方向性

外科治療領域は、人工心肺や循環器の外科治療だけにとらわれず、治療すること全般が事業領域ととらえています。

まだ製品化されていないものを当社独自の技術で世の中に出したら、どんな治療に役立つだろうか、どんな人を助けられるだろうか、そんな夢に向かってさまざまな取り組みに挑戦しているところです。

新製品を開発することは、収益の新しい柱になる期待があるだけでなく、海外パートナーへ当社の技術力・開発力をアピールすることにもつながります。

良いパートナーとアライアンスを組むことで、海外ビジネスに

おいても、当社単独で海外進出するよりスピード感をもって展開でき、新しいビジネスチャンスに出会う可能性も広がります。



BUまとめ

BU制度を導入したことで、

開発・生産・販売間の意思疎通のスピードはあがり、

各部門からの解決提案もより活発になっています。

医療現場のニーズを聞き取り、BUのメリットを活かし、

スピード感を持って新しい製品や技術開発に取り組んでいきます。



人の健康を支える医療機器メーカーとして社員の健康づくりに取り組んでいます。

当社は「かけがえのない生命のために」を創業精神とし、

医療を必要とする人と支える人の架け橋として健康でより豊かな生活に貢献することを企業理念としています。

当社の行動指針の一つに「心身の健康意識を高める」ことを掲げ、医療を必要とする人や医療関係者だけでなく、

まずは私たち一人ひとりが健康意識を高めることが大切と考えています。

また、社員やその家族が生き生きと安心して生活できる環境を提供するためにも、 健康維持・増進に向けたさまざまな取り組みを進めています。

当社では、社員やその家族が自らの健康や働き方への意識や関心を高められるよう、「ワーク・ライフ・バランスの充実」「健康維持・増進」「快適な職場環境」の3つの視点で取り組んでいます。

【主な取り組み】

ワーク・ライフ・バランスの充実

仕事の時間を柔軟に自己管理できる勤務 体系や休暇・休職制度の充実により、仕事 と生活におけるライフイベント(出産・育 児・介護・地域活動や趣味等)の両立を実現 します。

- ●フレックスタイム制度
- ●育児・介護休暇

健康維持•增進

充実した検査内容による健康診断の実施 や検診・予防接種により、病気の予防や早 期発見の重要性を認識することで、健康の 維持・増進に努めます。

- 定期健康診断(検査内容の充実)
- がん検診費用の補助
- 各種予防接種

快適な職場環境

受動喫煙の防止や社員のメンタルヘルス 不調の予防、職場のストレス状態を把握することで、心身ともに快適に過ごせる働き やすい職場環境を目指します。

- ●补内分煙
- 過重労働対策(ノー残業デー)
- メンタルヘルス対策(ストレスチェック)

広島県による"県民総ぐるみ"のがん対策に賛同し、「Teamがん対策ひろしま」に企業登録しました。

広島県では「がん対策日本一の実現」を目指し「Teamがん対策 ひろしま」活動を推進しています。

この活動は"がん"を正しく理解し、がん対策への意識向上をはかることを目的にしたものです。当社は「地域の皆様と社員のいのちを守る」企業として、地域の先導的な役割を担っていくために「Teamがん対策ひろしま」へ企業登録し、がん検診の受診率向上や就労支援などのがん対策に積極的に取り組んでいます。







大連JMS医療器具有限公司が、設立30周年を迎えました。

当社は1988年、中国の巨大な経済成長 に期待し大連市に「大連JMS医療器具有限 公司(以下、大連JMS)」を設立。今年、設立 30周年を迎えたことから、現地で記念祝典 を開催しました。

大連JMS設立当初は、日本を含む海外 市場へ製品を供給することからスタート し、その後、国際的な医療機器需要の高ま りにあわせ計画的に規模を拡大してきまし た。近年では中国国内での需要拡大が続 いていることから、中国市場に特化した製 造販売にシフトしています。

これからも中国の医療の発展に貢献す るとともに、当社グループのグローバル展 開をより加速させる拠点になることが期待 されています。









記念祝典の様子



被爆樹木を後世に引き継ぐために、

「緑の伝言プロジェクト」の活動支援を続けています。

当社は2009年から、被爆樹木を守り伝える活動「緑の伝言プロジェクト」に参加して います。この活動は、広島市と市民により2005年からはじまり、爆心地から概ね2km以内 で被爆した樹木を調査し、樹木医の管理のもと守り続けています。そして広島市内では、 被爆樹木をめぐるツアーや、被爆樹木をテーマにしたワークショップなども開催されて います。

現存する被爆樹木は、約170本。当社は、これからも被爆樹木を後世に引き継いでいける よう、活動を支援していきます。



被爆イチョウ(安楽寺/東区牛田本町)

Green Greetings

もっと知ってください。[被爆樹木]のこと。「緑」の伝言サイト 緑の伝言



財務諸表《連結》

■連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結 会計年度 2018年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2018年9月30日現在	科目	前連結 会計年度 2018年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2018年9月30日現在
《資産の部》			《負債の部》		
流動資産1	37,597	36,125	流動負債2	21,481	21,757
 現金及び預金	7,162	5,576	固定負債3	14,272	12,346
 受取手形及び売掛金	16,452	16,020	負債合計	35,754	34,104
たな卸資産	13,179	13,687			
その他	803	840	《純資産の部》		
固定資産	29,707	29,718	株主資本	31,044	31,282
有形固定資産	23,324	23,404	その他の包括利益累計額	378	325
無形固定資産	438	486	非支配株主持分	127	131
投資その他の資産	5,943	5,827	純資産合計	31,549	31,739
資産合計	67,304	65,844	負債純資産合計	67,304	65,844

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る 連結貸借対照表については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

>>> POINT解説

- 「前連結会計年度末に比べ] ● 流動資産 14億71百万円減少
- ・借入金の返済により、現金及び預金が減 少しました。
- 「前連結会計年度末に比べ」 4 純資産 1億90百万円増加
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益の 計上により、利益剰余金が増加しました。
- 「前連結会計年度末に比べ」 ② 流動負債 2億76百万円増加
- ・長期借入金の振替により、1年内返済予定 の長期借入金が増加しました。
- 「前連結会計年度末に比べ」 ❸ 固定負債 19億26百万円減少
- ・流動負債への振替により、長期借入金が 減少しました。

■連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日~ 2017年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日~ 2018年9月30日
売上高	27,402	28,426
売上原価	20,449	21,225
売上総利益	6,953	7,200
販売費及び一般管理費	6,796	6,710
営業利益 ····································	156	490
営業外収益	279	280
営業外費用	102	177
経常利益	334	593
特別利益	1	4
特別損失	11	29
税金等調整前四半期純利益	324	568
法人税等	112	140
四半期純利益	211	427
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	210	426

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日~ 2017年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日~ 2018年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	381	1,573
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,766	△1,347
財務活動によるキャッシュ・フロー	676	△1,796
現金及び現金同等物に係る換算差額	40	△3
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△668	△1,573
現金及び現金同等物の期首残高	6,333	7,220
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,665	5,647

>>> POINT解説

- ■営業活動によるキャッシュ・フロー f 前年同四半期に比べ] 11億91百万円収入増加]
- ・仕入債務の増減額によるものです。
- ■投資活動によるキャッシュ・フロー 4億19百万円支出減少
- ・有形固定資産の取得にかかる支出の減少によるものです。
- ■財務活動によるキャッシュ・フロー 前年同四半期に比べ 24億72百万円支出増加
- ・借入金の収支差額によるものです。

>>> POINT 解説

⑤ 売上高

前年同四半期に比べ10億23百万円増加

③ 営業利益

前年同四半期に比べ 3億33百万円増加

- ・地域別では日本での販売の増加、システム別では輸液・栄養領域及び透析領域での販売の増加により増収となりました。
- ・増収効果に加え販売費の低減により増 益となりました。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

●当社の概要

設 立 1965年(昭和40年)6月12日

資 本 金 7,411,014,445円

上場金融商品 東京証券取引所市場第一部

取 引 所 (証券コード:7702)

主要な事業内容 医療機器、医薬品の製造・販売

及び輸出並びに輸入

従 業 員 数 1,662人

(グループ総数 6,631人)

●役員

ĦΖ

代表取締役社長 宏 章 奥窪 常務取締役 粟 根 康浩 純 取 締 役 国富 森 川 重 美 取 締 役 佐 藤 雅 文 ĦΖ 締 役 取 締 役 桂 龍 司

締 明 取 役 井口 彦 締 役 池村 和 朗 取 沂 藤 監査役(常勤) 良 夫 早稲田 幸 雄 監 杳 役 水戸 晃 監 杳 役

※井□明彦氏、池村和朗氏は、社外取締役であります。 ※早稲田幸雄氏、水戸晃氏は、社外監査役であります。

柳田

役

」MSグローバルネットワーク

グローバル展開を推進するために、製造拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

正 吾

海外ネットワーク

子会社

- ◆ 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- ② ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE LTD 《製造・販売》
- おおります。

 おおります。

 おいます。

 おいます。

 おいます。

 おいます。

 ないます。

 ないまする。

 ないまする。<
- **④** ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- ⑤ バイオニック・メディツィンテクニックGmbH《販売》
- **6** PT. ジェイ・エム・エス・バタム《製造・販売》
- ▼ ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造・販売》
- 3 ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド Co., Ltd. 《販売》

国内ネットワーク

子会社

∮ ジェイ・エム・エス・サービス株式会社 《医療機器の修理等》

関連会社

株式会社 ジェイ・オー・ファーマ 《医薬品の製造・販売》

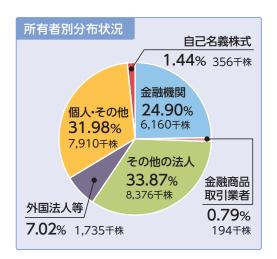


株式概要 (2018年9月30日現在)

◇発行可能株式総数 ……… 65,000,000株

◇発行済株式総数 ………… 24,733,466株

(自己株式356,152株を含む)

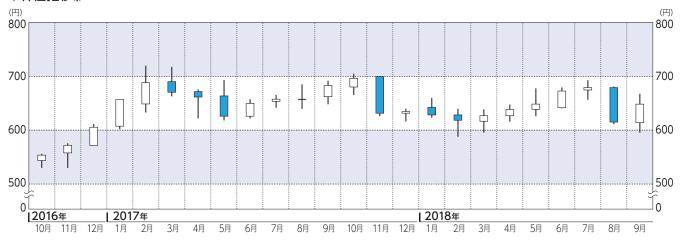


◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,473	10.14
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.79
土谷佐枝子	1,008	4.13
社会福祉法人千寿会	1,000	4.10
株式会社広島銀行	895	3.67
第一生命保険株式会社	861	3.53
JMS共栄会	607	2.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	605	2.48
大下産業株式会社	571	2.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	487	1.99

(注)持株比率は、自己株式(356,152株)を控除して計算しております。

◇株価推移※



※当社は2017年10月1日付で普通株式2株を1株とする株式併合を行っております。株価は株式併合の影響を考慮して換算しています。

株主メモ _{証券コード: 7702}

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年

基 準 日 定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日 中間配当 9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定 時 株 主 総 会 毎年6月

株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所東京証券取引所市場第一部

公告の方法電子公告とする。

(http://www.jms.cc/ir/denshi.html)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信 託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、 多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶http://www.jms.cc/

IMC

検索





株式会社 JMS

広島本社

〒730-8652 広島市中区加古町12番17号

TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社

〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】

テーマ「立ち上がり、歩んでゆく。|



大空に架かる虹に向かって、力強く歩む人々。その 手にある二葉は希望を表 しており、困難な事があっても、また立ち上がり歩ん でゆく人々を医療を通じて 支え続けたいと願うJMS をイメージしています。

